

大入島の活性化に取り組む皆さん

～令和6年5月14日(火)訪問～ 【佐伯市】



佐伯湾に浮かぶ周囲約17kmのひょうたんのような形をした大入島には、現在約500人が住んでいます。かつては、住民が3千人以上もいた大入島ですが、人口減少や少子高齢化が進み、空き家が目立つようになりました。そこで、島をもう一度活性化させようと、韓国で人気のトレッキング「オルレ」の誘致活動に着手し、平成29年には九州観光推進機構(現:一般社団法人九州観光機構)が展開する「九州オルレ」に認定されました。その後の6年間で、韓国をはじめとする国内外からの累計参加者数が1万人を突破するなど、人気のコンテンツになっています。

また、漁獲量が減少する一方であった漁業を活性化させようと、シングルシードマガキの養殖に取り組み、オーストラリアなどで開発され省力化が可能な「フリップファーム方式」を日本で初めて導入しました。清浄な環境で育てられ長期輸送に耐えられるマガキは「大入島オイスター」として大変好評とのこと。一方で、人口減少により増加した空き家や廃校舎の利活用、地域交通の確保等の課題についても、ご意見、ご要望をお伺いしました。

島の活性化のため、さまざまな取組を行っていただいていることに感謝を申し上げるとともに、県も引き続き協力していきたいとお伝えしました。

懇談風景



関連分野における県の施策(令和7年度)

☆事業名: 持続可能な地域づくり推進事業

事業概要: 住民の希望を叶え、将来にわたり持続可能な地域づくりを実現するため、地域コミュニティ組織が行う地域課題の解決等に要する経費に対し市町村と連携して助成するほか、新たな組織の設立や再編・連携を支援

・高齢化集落等支援事業費補助金(補助率 県3/4以内、市町村1/5以上)

予算額: 1億1,454万円(うち高齢化集落等支援事業費補助金 7,800万円)

☆事業名: 【特】地域公共交通DX促進事業の一部

事業概要: 自動運転レベル4の実装に向けた市町村が行う実証運行への支援

予算額: 2,000万円(県補助率1/2(国庫補助を除いた額)、限度額1,000万円)

☆事業名: 空き家対策促進事業

事業概要: 空き家の適切な管理と利活用を促進するため、空き家相談窓口の設置や移住者等向け空き家利活用の支援など所有者や利活用者に応じた対策を実施

・空き家利活用事業費補助金(補助率 県1/4、市町村1/4)

予算額: 8,060万円

※【特】は本県の課題を解決し、新しいおおいたを創りあげる「新しいおおいた共創枠」